

保健体育科学習指導案（1年4組）

令和3年6月16日（水曜日） 8:40～9:30 体育館

1 単元 【E 球技】 イ ネット型（バレーボール）

2 単元の見どころ

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解するとともに、基本的なボール操作や定位置に戻るなどの仲間と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。
- (2) ボール操作などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配っている。

3 単元設定の理由

(1) 教材観

①単元の見どころ

本単元は、映像資料の活用やジグソー学習法での活動を通して、基本的なボール操作や仲間と連携した動きを身に付け、互いに協力し、自己の役割を果たしながら運動に親しんでいこうとする意欲を高めていくものである。具体的には、自他の動きを映像資料を基に確認しながら練習を行うことを通して、合理的な運動の取り組み方を工夫し、基本的なボール操作と仲間と連携した動きを身に付けることができる。それらの技能を習得する過程で、映像分析を通して、他者の課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を高めることができる。また、技術のポイントを仲間との話し合いで考え、そのポイントを基に仲間同士の関わり合いを促すためのジグソー学習を行うことを通して、話し合いに積極的に参加したり、仲間の学習を援助したりしようとする態度を培うことができる。さらに、自分自身の技能の変容を映像データに残し、単元終盤に変容を見取る活動を通して、技能的な成長を実感し、運動に親しむ意欲的な態度を養うことができる。

②単元の系統性

- ・小学校5・6年では、基本的なボール操作とボールを持たない動きを身に付け、ソフトバレーボールやプレルボールを基にした簡易化されたゲームを行えるようにしてきた。
- ・第3学年では、ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う・つなぐ・打つ」の流れで攻撃を組み立てるなど、空いた場所をめぐる攻防をするといった力を更に高めていく。

(2) 生徒観（男子16名、女子18名 計34名）

- ・知識・技能については、小学校で簡易ルールでのソフトバレーボールを経験しているが、バレーボールの特性やルール、技術や戦術の名称等は十分に理解していない。また、体づくり運動の授業でボールを投げる運動をしたが、ボールを上手に操作する基本的な技能は高いとは言えない。これは、系統的にボール運動を学習する機会が担保されず、技能の積み重ねが不十分であることが原因であると考えられる。
- ・思考・判断・表現については、自他の課題を発見し、自己や仲間の考えたことを伝えることができない生徒が多い。これは、運動のコツやイメージを言語化する力が身に付いていないことが原因であると考えられる。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、多くの生徒が保健体育の授業を楽しく感じている。しかし、好きではないと答えている生徒も少なくない。技能低位生徒が好きではないと答えていることから、運動有能感が低いことが原因であると考えられる。また、積極的に話し合いに参加し、仲間の学習を援助しようとする力が身に付いていない生徒が見られる。これは、中学校に入学した以降の体育の授業で仲間と関わり合いながら課題を解決していく機会が十分ではなかったことが原因である。

(3) 指導観

- ・オリエンテーションを行うことで、学習の見通しをもって取り組めるようにするとともに、技

術の名称や行い方を理解できるようにする。

- ・毎時間慣れの運動を行うことを通して、基本的なボール操作が定着するようにしていく。
- ・ICT 機器で基本的なボール操作を撮影し、見本となる動きと比較することで、ボール操作に関する自己や他者の課題を発見しやすくし、映像資料を基に考えを伝えることができるようにする。
- ・技術のポイントを仲間との話合いで考え、そのポイントを基に仲間同士の関わり合いを促すためのジグソー学習を通して、積極的に仲間へのアドバイスを رفتたり、練習の補助をしたりすることができるようにする。
- ・単元はじめの段階でのボール操作の技能と単元中盤、単元終盤での技能を撮影し、単元の振り返り活動の際に自分自身の技能の変容を確認する活動をすることで、技能的な成長を実感し、運動有能感の向上につながるようにしていく。

4 指導と評価の計画 保健体育科 1年 単元「球技（バレーボール）」（全11時間計画）

目標	<p>(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解するとともに、基本的なボール操作や定位置に戻るなどの仲間と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。</p> <p>(2) ボール操作などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについて話合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などや、健康・安全に気を配っている。</p>					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	<p>○知識</p> <p>①球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>○技能</p> <p>①相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。</p> <p>②味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。</p> <p>③プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻ることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントを参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に気を配っている。</p>			
過程	時間	◎目標・課題	○学習活動	重点	記録	備考
つ か む	1	<p>◎オリエンテーションを通して、バレーボールの特性や学習の進め方を理解し、学習の見通しをもつことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>バレーボールの特性はどのようなものがあるのだろうか。また、どのように学習を進めていくのだろうか。</p> </div>	<p>○オリエンテーションで以下のことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特性や成り立ち、技術 ・学習の進め方・見通し <p>○試しのゲームを行う。</p>	知 態	○	知①：記述分析 態②：行動観察
		<p>単元の課題：チームでパスをつないで、ラリーが続くゲームを楽しもう</p>				

追 究 す る	2	<p>◎各グループ代表が、三つ（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サービス）に分かれて、エキスパート活動を行うことを通して、それぞれの技術のポイントを理解し、身に付けることができる。</p> <p>技能を上達させるために必要なポイントは何だろう。また、どのような練習を選べば、チームのメンバーが上達するだろうか。</p>	<p>○エキスパート活動を行う。</p> <p>A班：オーバーハンドパス B班：アンダーハンドパス C班：サービス</p> <p>○技術のポイントを考える。</p> <p>○ポイントを伝える方法を考える。</p> <p>○練習方法を選択し、実践する。</p>	思 思	○	<p>思③：行動観察 記述分析</p> <p>思③：行動観察 記述分析</p>
	3 (本時はその2)	<p>◎技能のポイントを仲間と共有し、映像を通して自他の動きを確認することで、課題を発見し、合理的な運動の取り組み方を仲間伝えることができる。</p> <p>正確にボールをコントロールするための技術のポイントはなんだろう。また、そのポイントを踏まえた自分の課題はなんだろう。</p>	<p>○ジグソー活動を行う。</p> <p>○エキスパート活動での成果をグループに戻り、伝える。</p> <p>①A班が中心となり、チームでのジグソー活動を行う。 ②B班が中心となり、チームでのジグソー活動を行う。 ③C班が中心となり、チームでのジグソー活動を行う。</p>	思	○	<p>思①：行動観察 ：記述分析</p>
	2	<p>◎ボールを持たないときの動き方を工夫することで、ラリーを続ける方法を見つけることができる。</p> <p>ボールを持っていない人はどのように動けば更にラリーを続けることができるだろうか。</p>	<p>○基本練習を行う。</p> <p>○簡易ゲーム（3対3）を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチなし ・バウンドあり <p>○ゲーム前に作戦、後に振り返りの話し合いをする。</p>	技 態	○	<p>思①：行動観察</p> <p>態①：行動観察</p>
ま と め る	1	<p>◎攻撃に備える構えや動き方を理解し、ラリーを続けることができる。</p> <p>どのようなフォーメーションが三段攻撃の成功に有効だろうか。</p>	<p>○基本練習を行う。</p> <p>○三段攻撃の練習を行う。</p> <p>○ワンバウンドゲームを行う。（6対6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2本目のみキャッチあり <p>○ゲーム前にフォーメーションや作戦を考えさせる。</p>	技	○	<p>技①：行動観察</p>
	1	<p>◎相手コートにボールを落とすために、どのようなことを意識すると有効打になるだろうか。</p>	<p>○基本練習を行う。</p> <p>○ボンバーゲームを行う。</p> <p>○自分たちのゲーム映像から、空間を見付ける。</p> <p>○ワンバウンドゲームを行う。（6対6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2本目のみキャッチあり ・ノーバウンドで得点した場合2点 	思 技	○ ○	<p>思②：行動観察 ：記述分析</p> <p>技②：行動観察</p>
	1	<p>◎連携した動きから三段攻撃につなげることができる。</p> <p>仲間と連携しながら三段攻撃を目指し、安全に気を配りながら大会を成功させよう。</p>	<p>○バレーボール大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三段攻撃で得点した場合2点 ・ノーバウンドで得点した場合3点 ・ローテーションあり 	態 技	○ ○	<p>態②：行動観察</p> <p>技③：行動観察</p>

5 本時の展開 (5/11)

(1) 目標

技能のポイント仲間と共有し、映像を通して自他の動きを確認することで、課題を発見し、合理的な運動の取り組み方を仲間伝えることができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 前時の活動を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <p>○前時で行った活動を振り返り、本時の見通しを持つ。</p> <p>○チームごとに準備運動、慣れの運動を行う。</p>	<p>○前時で行ったジグソー学習という協働的な学習で自己課題を発見しながら技能が向上した経緯を振り返ることで、本時への動機付けとする。</p> <p>○チームごとに準備運動や慣れの運動をさせることで、生徒同士のコミュニケーションが促されるようにする。</p>
<p>課題：正確にボールをコントロールするためのアンダーハンドパスのポイントはなんだろう。また、そのポイントを踏まえた自分の課題はなんだろう。</p>	
<p>2 チームごとにアンダーハンドパスの練習をする。</p> <p>○エキスパートの生徒がアンダーハンドパスのポイントを説明する。</p> <p>○エキスパートがリーダーシップをとり、アンダーハンドパスを習得するための練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親指を下にむけると肘が伸びるよ。 ・前腕のあたりでボールを捉えようまくいくよ。 <p>○iPadで技能発揮の映像を撮影し、映像を通して課題を見付け、他者に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手首を反っていないな。 ・膝のバネが使えていないな。 <p>3 タスクゲームを行う。</p> <p>○チームごとに試合に出る順番の確認を行い、ゲームを行う。</p> <p>○試合に出ていない間は、審判や得点板、ゲーム状況の撮影を行う。</p> <p>4 学習のまとめを行う。</p> <p>○今日の取組について振り返り、記録する。</p>	<p>○エキスパートカードを基に説明させることで、チーム間で伝えるべきポイントの違いをなくし、技能を習得する際のポイントを端的に説明できるようにする。</p> <p>○エキスパートが説明し、行うべき練習やポイントを伝達してから練習に取りかかることで、チームメイトが見通しをもち、ポイントを踏まえた練習を行えるようにする。</p> <p>○エキスパート学習で考えた技能のポイントを穴埋めにして大判で掲示しておくことで、エキスパートが要点を的確に相手に伝えることができるようにする。</p> <p>○モニターに教員によるつまずき例を示し、どこがよくないかを生徒に問いかけることで、映像を通して生徒同士が課題に気づくことができるようにしていく。</p> <p>○映像を介して課題を伝えさせることで、技能のコツやイメージを言語化することが苦手な生徒でも他者に伝えられるようにする。</p> <p>○試合に出ていない生徒にも役割を与えることで、「見る・支える・知る」といった多様な関わり方をする機会をつくれるようにする。</p> <p>○iPadで試合の様子を撮影させ、映像データとして蓄積していくことで、チームの連携を学習する際の資料となるようにしていく。</p> <p>○keynoteに過去の自分と本時の自分の動画を二画面で記録し、ポートフォリオとしていくことで、より見本に動きが近づけた実感もてるようにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自己や仲間の技能について、ポイントを基に課題を見つけ、合理的な運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p style="text-align: right;">(観察及び学習カード)</p> </div>
<p><まとめ・振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンダーハンドパスは、肘をしっかりと伸ばして手首を反り、膝のバネを使ってボールを持ち上げることが重要だ。自分は手首を反っていないくて、腕を振り上げてしまうから、腕を振り過ぎないようにしていこう。 	
<p><「学びの質」を高めるための具体的な手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の技能発揮をiPadで撮影し、スローや停止機能を活用した課題発見活動 ・協働的な学びを実現するためのジグソー学習法 	